

※この資料は、勉強会<合同>第3回(7月13日開催)の議論の結果のうち、原地区の地域づくりの戦略案(代替素案)に関連する内容を暫定的に記載したものです。

他の結果と合わせて、「開催概要」及び「グループ討議の概要」に掲載予定です。

## 沼津高架PIプロジェクト 勉強会<合同>第3回 原地区の地域づくりの戦略案(代替素案)に関する討議の概要(暫定版)

### 【A グループ】

まず、観光や新産業誘致については、人が来るだけでなくお金も落ちるような特長あるしくみを考えることが必要との意見が出されました。各戦略案(代替素案)については、3案以外に今のままで何もしないという方向性もあるのではないかと意見が出される一方、その場合は7割ほど用地買収が済んでいる貨物駅予定地をどのようにするのが現実の課題として挙げられました。原B案では計画を進めながら貨物駅予定地以外の種地を増やしていくことができるのではないかと意見がありました。また、原A案では貨物駅移転の合意形成に、原B案では現計画の見直しのためにどちらも時間がかかるので、今後のまちづくり、財政、時間などの観点から今何をやるべきかを考える必要があるとの意見も出されました。なお、資料について沼津駅周辺地区のように各案の違いをわかりやすく表現してほしいとの要望がありました。

### 【B グループ】

原地区の戦略案(代替素案)は沼津駅周辺地区のように事業費が出されていないため、原B案のように夢を描くのは良いが予算や事業主体など実現性を踏まえて検討した方が良いのではないかという発言がありました。実現性について関心が高く、導入したい機能・施設に需要があるのかを考えることが重要だ、物流の拠点として機能する余地が無いので原A案は現実的ではないなどの意見が出されています。スマートICができてアクセスが向上することでまちづくりの好機がきているので、道の駅などが整備されて人が集まってくれば、それが呼び水になって次につながるのではないかという意見もありました。

### 【C グループ】

原A案に関連して、貨物駅の計画用地を縮小することで合意形成をしやすくできるのではないかと提案が改めてされました。また、現計画では貨物駅の両端は公園にする計画であり、原A案でも図に反映してほしいという意見がありました。原B案については、理想として検討しているが現実的に事業費等が足りなければ原C案になるという認識が示されました。また検討の進め方に関する意見や提案があり、原地区にはなんらかの整備が必要というのは分かるが、原B、C案は沼津駅の高架事業とは関係性が少なくPIで検討することに疑問、原地区の地域づくりをPIで検討するならば、車両基地予定地となっている片浜地区のまちづくりも検討すべきだとの意見がありました。

### 【D グループ】

今回出された貨物駅に関する参考資料のデータは古く、貨物駅をもっと縮小できるのではないかと、貨物駅を7割程度に縮小し既を買収済みの土地を使って活性化できないかといった意見がありました。企業誘致にあたっては、津波の心配がないという学識経験者からの見解をもっとPRしていくべきで、富士山の世界文化遺産登録という機運に合わせ、土地の特性を生かした機能や施設を立地したいとの意見が出されました。また、原A案については、貨物駅ができると静かに生活することができないのではという懸念があります。ここで、案の選定についても議論になり、みんなが喜ぶことのできる案を選ぶべきだといった意見が出された一方、みんなが喜ぶようにするために、何も決まらない、何もできないことのないようにしたいといった意見も出されました。